

報 告 事 項

人員配置等 (令和5年4月1日時点)	事業所名	ラシエル高知
	利用者定員	16人
	開所年月日	令和4年7月15日
	日中の世話人と生活支援員の人数及び平均勤続年数	世話人： 5人(平均勤続年数 0.8 年) 常勤換算4.9人 生活支援員： 3人(平均勤続年数 1 年) 常勤換算2.7人
	夜間の世話人と生活支援員の人数及び平均勤続年数	世話人： 3人(平均勤続年数 0.5 年) 常勤換算1人 生活支援員： 人(平均勤続年数 年)
利用者の状況	障害者支援区分の内訳(※令和5年4月1日時点)	非該当： 人 区分1： 0人 区分2：0人 区分3： 2人 区分4： 5人 区分5： 4人 区分6： 1人
	主な障害種別(それぞれの日中GHで過ごす人の人数)	身体： 2 人(2 人) 知的： 8人(8人) 精神 6人(6 人) 難病等 人(人)
	年齢構成・性別	20歳未満： 1 人(男： 人・女： 1 人) 20代： 1人(男： 1人・女： 人) 30代： 3人(男： 2人・女： 1 人)40代： 3人 (男： 2 人・女： 1 人) 50代： 1人(男： 1人・女： 0 人) 60代： 3人(男： 1 人・女： 2人)
	医療的ケアの必要な利用者の人数(※令和5年4月1日時点)	1 人
	強度行動障害のある利用者の人数(※令和5年4月1日時点)	2 人
	令和4年度 新規入所者数と退所者数	入所者： 6 人 退所者： 1人
	高知市の支給決定者数と高知市外の支給決定者数(※令和5年4月1日時点)	高知市： 4 人 高知市外： 8 人
	令和4年度 短期入所の定員数、実利用者数、延べ算定回数	定員数： 1 人 実利用人数： 2 人 延べ利用人数： 2 人
	計画相談支援について	別法人の計画相談による作成： 14 人 自法人の計画相談による作成：0 人
		セルフプラン： 0 人 ケアプラン： 1 人

事業所の特徴	事業所の運営方針	具体的な内容 利用者が地域において日常生活又は社会生活を営むことができるよう、利用者の身体及び精神の状況並びにその置かれている環境に応じて共同生活住居において、入浴、排泄又は食事の介護、相談その他の日常生活上の援助を適切かつ効果的に行います。
	事業所として特に大事にしていること	具体的な内容 ・個々の健康管理。精神的なケア(傾聴の姿勢) ・切れ目のない支援(日勤、夜勤の交代時での個々の状態、支援について共有し、繋いでいく) ・事故の防止(上記共有、共通の意識を持つ)
常時の支援体制の確保	日中、夜間、土日を含めた常時の支援体制の確保について	具体的な内容 日中:経験(視野)を持った支援員を必ず1名は配置するようには心掛けている。 :相談が出来る体制(管理者、現場責任者1名、何れかが常時報連相、緊急時は対応が可能な体制)
支援の質の確保について	職員の資格取得状況	具体的な内容 精神保健福祉士、介護福祉士、保育士、幼稚園教諭Ⅱ種、社会福祉主事任用、看護師、保健師 重度訪問介護従業者、同行援護従業者、介護初任者、相談支援従事者初任者、行動援護実務者(強度行動障害支援者)、訪問型職場適応援助者
	令和4年度 職員の質の向上について (内部研修, 外部研修への参加, その他)	具体的な内容 内部研修:月1回 外部研修:事業所が必要と感じた研修、職員の申し出により会社に申請(外部、内部共に研修に関して前向き) 現場中心、現場人員確保の為、必要不可欠と感じた職員や研修以外なかなか外部研修に向かえる余裕がないのが現状。 ※webでの研修はその点メリットはある。デメリットとしては知識はつくがイメージだけになり実践
	令和4年度 苦情及びヒヤリハットの件数	苦情件数: 1 件 ヒヤリハット: 8 件
	苦情やヒヤリハットの対応例	具体的な内容 夜間:居室に入ろうとすると電灯が付かなかった。確認するとブレーカーが半分落ちていた。更に原因を探るとコンセントにコードを刺したままラジカセが破損していた。(本人にも確認済み) 対応:破損したラジカセは預かり、コンセントを塞ぐ処理をした。コードを抜きブレーカーを戻し電灯を付けると点灯した。 原因:コンセントを繋いだままラジカセを壊した。 対策:ご親族に説明許可を頂き、居室内でのラジカセは使用しないようにして頂いた。 「ラジカセが破損されブレーカーが落ちただけで済んだが、一歩間違えれば感電等命の危機もある」

	<p>重度化・高齢化等で日中をホーム内で過ごす利用者への支援はどのようにしているのか。</p>	<p>具体的な支援の内容 重度化に関して:主としては問題以上の問題が起こらないような施策、体制を作る事を繰り返す。 高齢化に関して:活動がご高齢の方に合わせる形が多く、他の利用者様とうまく調和できることを考える。く見分けが必要な場合もある。障害から医療介護の視点が必要になる為、頻回な身体状況の確認声、掛けが必要。</p>
<p>利用者の主な日中の活動について</p>	<p>外部の日中活動サービス等の利用状況について (他の日中活動サービスの利用を妨げていないか)</p>	<p>外部の日中活動サービスの利用者人数 3名 主な外部の日中活動サービスの種類:生活介護、デイケア 外部の日中活動サービスの利用ニーズを把握しているか 把握している場合今後の対応について 利用者様の環境や特、状態により状況を確認しながら検討している。 必要と感じた場合は、入居時にでもこちらからの提案もする。</p>
	<p>同一敷地内に設置した通所事業所について (該当する場合のみ記載)</p>	<p>事業所名: サービス種別: 利用定員: 事業所での日中活動の具体的内容 日中支援型GH入居者の当該通所事業所の利用状況 利用人数 名 通所頻度 週に 日程度</p>
<p>他の事業所との連携</p>	<p>相談支援事業所や外部の障害福祉サービス事業所との連携の状況について</p>	<p>具体的な内容な連携状況の事例を記入 連携必須</p>
	<p>体験的な利用ニーズに対応しているか</p>	<p>昨年度の体験利用人数 12名 体験利用の具体的な内容 ・2泊3日無料～その時の状況に合わせて柔軟に対応できるが、入居の為の部屋になる為入居希望の方がメインにはなる。(短期1室男性なら短期、体験利用可能※空室ならば) ・例外として数時間からの体験受け入れの実績はある</p>

地域に開かれた運営について	実習生やボランティアを受け入れているか。	受入人数 0 名 受入事例
	地域住民やボランティア団体との交流の機会が確保されているか。	具体的な内容 ・施設訪問の申し出はありいつでも可能。 満床で利用者様の安定後を考えている。
短期入所の併設について	地域で生活する障害者を積極的に受け入れているか。☒	年間の利用者数 名 具体的な内容 施設設立が浅いためか、知名度がないようで「近所にあるのを知らなかった」と、最近になって知ったと見学に来られた親族は2名いらっしゃった。
	緊急的利用のニーズに対応しているか。	緊急受入人数 3 名 緊急受入事例 ・入院後の行き先が決まらないまま退院を迎える ・GH閉鎖で行き先が決まらないまま退去日を迎える ※医療連携体制がまだのため、医療的要素が強い方、日中は生活支援が常駐しているが、夜間帯に介護資格がない世話人がいる為、介護が必要な方は受け入れが困難であった
	利用者の金銭管理については、本人同意の上、帳簿等により適切に管理されているか。また、判断能力が著しく低い利用者については、成年後見制度の利用等の支援を行っているか。	金銭管理の支援方法 ・殆ど身元引受人管理。お小遣い程度(おやつ、日用品購入分)の金銭は管理できる(1か月~2か月に一度「預かり」としてお預かりし本人と管理している) 成年後見制度の利用支援及び利用者数 ・利用支援事例等(有) ・有の場合の支援内容記載(利用者数 3名) 金銭管理(財産) 担当者会議や状況確認など共有(親族がご健在で、財産や書類等管理、ご身内が決めきれない時の相談先)

<p>権利擁護について</p> <p>自立支援協議会からの助言・要望への対応について</p>	<p>利用者のプライバシーに配慮した支援となっているか。(個人情報の管理、複数の選択肢の提供、自己決定・家族の合意等)</p> <p>昨年度助言や要望があった場合の具体的な対応内容(初めて評価、報告を行う場合を除く)</p>	<p>利用者に配慮した支援、取組み内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人情報の持ち出し禁止(事務所内管理)、職員間でのSMSによる利用者情報のやり取り禁止 ・同性介助(必要時にはご本人や引受人に同意を得ている) ・一緒に考える事で選択肢の提供、提案し、自己決定(家族の同意を得てから提案の場合もある)して頂く。 <p>具体的な内容</p>
<p>その他</p>	<p>親の高齢化やその他の事情等による親御さんへの対応</p>	<p>(EX:免許返納や元々車を持っていない等で自宅に帰省を希望される方への対応等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今の所、親族の方が対応して下さる利用者が大半。 ・ご自身で移動可能な場合は、ご親族からの連絡があり調整をして、通院や買い物等、介護タクシーなど利用で待ち合わせ対応して下さっている。戸口(施設支援)から戸口(親御さん支援)
	<p>抱えている課題</p>	<p>具体的な内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員の確保 <p>夜勤者の入れ替わりが激しく、休みが多いことで日勤者が代行となり、日中が手薄になる。日勤帯(生活支援員)が手薄になり支援に波が出来てしまうので、利用者様が落ち着かない状態で不穏にならないようにする支援が多くなっている。</p>